

【資料 2】

町立小学校の適正規模・適正配置に向けた 意見集約

令和6年11月

第3回の検討委員会でいただいたご意見を以下のとおり整理しました

各テーマは、検討委員からいただいた意見を整理した6項目

テーマ	検討委員の意見
① どの段階で統合するのか（統合となった場合の場所も含む）	- 複式学級を編制しなければならなくなる前、もしくは複式学級になるタイミングで4校を1校にするのが良い。場所は町の中央がよい。 - 子どもの負担軽減のため、統合された幼稚園に入園した園児が卒園するタイミングで小学校が統合されていることが望ましい。
② 統合に向け地域や保護者からの理解をどう得ていくか	- 複式学級の仕組みを含め、統合のメリット・デメリットを地道に説明していく必要がある。 - 通学の負担解消に関する説明を行うことが重要である。 - 地域ごとに少子化の状況が異なるため、再配置に関する様々なパターンを想定しつつ、反対意見をお持ちの方にどう配慮するかを検討する必要がある。
③ 統合の場合、地域への影響は何が考えられるか	- 石川小の例を踏まえると、吸収合併は抵抗があると思われる。この点、新設する場合はそのような問題はないものの、母校がなくなってしまうという意見もある。また、立地場所としては、駐車場、道の幅、一方通行かどうかなど様々な観点を踏まえ、安全を第一に考える必要がある - 地域への影響よりも、子どもたちの都合を第一に考えるべきである - 複式学級を避けるために、保護者が町外に流出する問題もある。
④ 保護者が送迎を行う場合の課題	- 統合するのであれば、通学負担の解消に向けたスクールバスの導入は必須である。 - 保護者の悩みが多い事項であるため、検討時間を多くとりたい。 - 中学校の送迎時に車両が込み合う状況にあるため、渋滞解消が必要である。
⑤ スクールバスの運用（バス停、ルート、運行会社など）	- スクールバスについて、小さい子どもは長い時間乗っていただけないと考えられるため、保護者の意見を聞きつつ乗車時間やルートを入念に計画しなくてはならない。 - どのくらいの人数規模であれば運用が可能なのか考えなければならない。
⑥ 跡地利用	- 既存施設は取り壊すか、それが難しければ民間に売却するなど様々な選択肢があるものの、これは先の議論になると思われる。 - 子どもたちが放課後に遊びに行けるような場所・仕組みを作ってはどうか。

今回は答申に向けて検討委員会としての意見集約を図りたく、委員の皆様にごうものです

町立小学校の適正規模・適正配置に向けて意見集約を図る事項

これまでの調査・検討において整理されてきた主な内容

1

町立小学校の1学級あたりの適正な児童数及び1学年あたりの適正な学級数

- 1学級あたりの児童数について、住民アンケート結果では「21～25人」が最も多いが、現在は、矢吹小学校や三神小学校などではこれを下回る人数規模の学級も見受けられている。
- 1学年あたりの学級数について、住民アンケート結果では「3学級」が最も多い（ただし善郷小学校区以外では基本的に「2学級」が最も多い）が、現在は、善郷小学校以外の3校では基本的に1学級のみとなっている。また、複式学級は避ける必要があるという意見がみられている。

2

町立小学校の適正な再配置の必要性

- 住民アンケート結果では、保護者や地域住民いずれも7割以上が再配置について「やむを得ない」又は「行うべきである」と考えている。ただし、三神小学校区など町の中心部から遠い地域においては比較的に否定的な意見が多くなっている。
- 時期については複式学級を編制しなければならなくなる前、場所は中学校の近くとする意見もありました。

3

現段階で見えてきた課題

※基本的に来年度以降具体的に検討する内容

通学支援

再配置により学校が遠くなる可能性が高くなるため、スクールバス等の通学支援が必須とする意見が多い。また、保護者による自動車での送迎も増えることと見込まれることから、駐車場や交通環境の整備等についても慎重な検討が必要という意見がみられている。

地域との関わり

再配置においても地域と学校との関わりを継続する必要があり、再配置の必要性や進め方について地域と対話を重ねつつ検討を進める必要があるという意見がみられている。

その他

幼小中の連携、既存施設・跡地の活用、教職員の体制、多様性への合理的配慮等

子どもたちのより良い教育環境の実現

< 現状の整理 >

小学校において重要と考えられている「学力・体力の向上」「豊かな心を育む」「友だちづくり」といった観点では、児童が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことができるように、一定の学校規模を確保することが重要である。

① 本町では1学年あたりの学級数は2～3学級、1学級あたりの児童数は21～25人程度が望ましいと考えられているものの、児童数の減少が進んでいる状況を鑑みると、少子化によりその望ましい学校規模を維持することが難しくなると見込まれる。

② このことから、少なくとも複式学級を編制しなければならなくなる前に小学校の再配置の時期を検討する必要がある。

③ なお、再配置を進めるにあたっては、スクールバス等の通学支援が必要である。また、地域に対して検討内容等を発信しつつ、再配置の必要性や進め方について地域と対話を重ねつつ検討を進める必要がある。